

2025 エレクタオンコロジーミーティング in Osaka ご講演要旨

演者	大平 新吾 先生 東京都立大学 健康福祉学部 放射線学科 人間健康科学研究科 放射線科学域 助教 東京大学大学院医学系研究科 総合放射線腫瘍学講座
演題	臨床・教育の立場から見た Elekta リニアックの強み (ART, VMAT TBI, Prostate SBRT)
要旨	東京大学医学部附属病院では Elekta Linac を使用して現在 ART、VMAT TBI、前立腺 SBRT など高精度な放射線治療を患者様に提供している。また、都立大学では講義だけでなく学会主催の講習会などが実施され、教育分野においても Elekta Linac が使用されている。今回は東大病院、都立大学での使用経験をもとに Elekta Linac の強み、東大病院で Elekta Linac が使用されていることの意味、エレクタとユーザー間の連携体制について報告する。

演者	後藤 圭介 先生 福岡赤十字病院 放射線科部 診療放射線技師
演題	装置更新がもたらした恩恵 ～現場の声～ (マーカーレス、DIBH、AGL road)
要旨	Synergy から Versa HD への装置更新時に SGRT システム Catalyst HD と治療計画装置 Monaco の標準ビームモデル AGL を導入した。Catalyst を用いた皮膚マーカーレスと DIBH の臨床経験に加えて、AGL と合わせて導入したビームデータ確認サポートソリューションの AGL road の経験も報告する。

演者	伊藤 憲一 先生 栃木県立がんセンター 放射線技術科 放射線品質保証室 ゼネラルマネージャー
演題	栃木県立がんセンターのサステナブル QA への取り組み ～エレクタ QA ソリューションを用いた運用～
要旨	栃木県立がんセンターでは、エレクタ製品を用いてシームレスな放射線治療を実施している。特に品質管理、精度管理 (QA・QC) においてはサステナブル QA を目指し検討を重ねてきた。今回は導入して 1 年が経過した、ファントムレスで実施する患者 QA を中心にその運用方法と今後の患者 QA の在り方について、データ比較をもとに報告する。また、AQUA を用いた品質管理を行うことでサステナブル QA が実現できた経験を報告する。

演者	井口 治男 先生 大阪公立大学大学院 医学研究科 放射線腫瘍学 講師
演題	Elekta Unityと VersaHD の臨床的選択～それぞれの特徴と今後の展望～
要旨	大阪公立(旧大阪市立)大学医学部附属病院は、西日本最大都市の教育研究機関として、最先端のがん医療に取り組んでいる。 特に、Adaptive Radiotherapy (ART) を積極的に導入し、変化の大きい臓器がんに対する最適な放射線治療の実現を目指している。 本発表では、MRIとCTの特性を活かした当院の取り組みを紹介し、注目を集めるARTの臨床的役割と今後の展望について述べる。

演者	大宝 和博 先生 JA 愛知厚生連 海南病院 放射線治療科代表部長
演題	多様な中枢神経転移に対する Agility-Monaco-VMAT の活用～脳定位照射を中心に～
要旨	頭部定位照射の経験を元に構築したプロトコルで、単一 IC による Agility-Monaco-VMAT(High-definition Dynamic Radio Surgery: HDRS)で頭部定位照射を実施している。講演では、複数 IC を同時に最適化できる Agility-Monaco-VMAT の特徴を活用した、全脳全脊椎照射についても紹介する。

演者	大栗 隆行 先生 産業医科大学病院 放射線治療科 診療教授
演題	Agility-Monaco-VMATによる急峻なGTV線量増加 ～肺・膵臓がんおよび脳転移を中心に～
要旨	Versa HD と Monaco を用いて定位照射、適応放射線治療 (ART) などの高精度治療を実施しており、定位照射では標的内の線量を高くして急峻な線量勾配の VMAT 又は DCAT プランを用いている。講演では、体幹部定位照射を中心に、Catalyst と Open mask による監視下での頭部定位照射についても紹介する。